



社会福祉法人 村 山 苑

村山苑だより



「新年を迎えて」

理事長 品川 卓正



新年あけましておめでとうござい
ます。地域の皆様をはじめ、
法人役員皆様方のおかげをもち
まして、法人内各施設は無事新年
を迎えることができました。改め
て感謝申し上げます。

昨年は五月に元号が「令和」に改められました。果たしてどんな時代になるのでしょうか。「平成」を振り返ってみますと大きな自然災害に見舞われた時代ではなかったかと思えます。平成三年、長崎の雲仙・普賢岳で発生した火砕流をはじめ、平成五年には、北海道南西沖地震、平成七年の阪神淡路大震災、そして平成二十三年には東日本大震災が発生しました。その他地球温暖化による西日本集中豪雨にも見舞われ、大きな被害と多くの犠牲者が出ました。社会福祉施設においても例外ではなく、多くの施設が被害を受けています。改めて、今後の災害対策に万全を期す努力が必要との認識を強く持ちました。

今も社会福祉法人に対しては社会の厳しい目が向けられています。課せられた課題には真摯に、そして積極的に取り組む必要がありますが、それだけに留まらず、自ら地域が必要とする課題を見出し取り組み、信頼を取り戻す努力が求められます。例えば、地域に対する公益的な取り組みについても、その場、その時だけに終わらせず、継続して取り組むことに意義があると思えます。そのことが社会福祉法人の信頼度を高めることになり、知名度も挙げることで、人材の確保にも繋がるものと思えます。

村山苑の今年の大きな事業として、第2ハトホームの改築工事が本格化します。利用者・ご家族の皆様と地域にお住いの方々のご理解とご協力を得ながら順調に工事を進めたいと思っております。そして、今年も経営施設の更なる発展と法人施設を取り巻く環境を見据え、安定した法人経営に努力するとともに、引き続き、法人独自の地域公益活動への取り組みに加え、東村山市社会福祉協議会や東京都社会福祉協議会が進める社会福祉法人の地域連携事業にも積極的に関わりたいと考えています。

ハトホーム南館増改築と清瀬への移転

第2ハトホーム施設長

岡野 雅和

村山苑だより第五十八号でお知らせしたハトホーム南館の増改築及び建て替えに伴う二施設分割と建て替え期間中の清瀬市（東京都社会福祉施設建替促進施設）への一時移転は計画通り順調に進んでおり、新施設の完成を待つ入居者の皆様は現在、清瀬市において新しい環境で過ごされています。

南館の建て替えについては、平成三十一年度に入り、いよいよ建物の詳細について、照明や空調、コンセントの位置など実際に建物を使うことを想定しながら検討を進め、令和元年七月に実施設計を終えました。令和元年十月十六日に既存建物の解体工事及び新施設の新築工事の入札が実施され、入札の結果、株式会社島村工業東京支店が落札、現在、南館・リハビリ棟・診療棟の解体が進められています。この間、数回の

住民説明会を開催させていただきました。近隣住民等の皆様のご理解、ご協力の下、ご迷惑をおかけしながら作業を進めさせていただき、心より感謝申し上げます。間もなく建築の着工の日を迎えることとなり、もうしばらくご迷惑をおかけする状況が続きますが、新施設完成後は、施設入居者の皆様はもちろんのこと、地域の皆様にも喜んでいただける施設になるよう検討していきます。

清瀬市（東京都社会福祉施設建替促進施設）への一時移転については、二施設分割による新施設の開設として、定員八十八名の「第2ハトホーム」として令和元年九月一日付で認可され、同九月十一日から代替施設での生活がスタートしています。

代替施設で使用する備品等は、東京都に用意していただいた物の他、運営が廃止となった施設から東京都の斡旋によって多数譲り受け、令和元年八月二十九日に引越し業者により運搬・搬入を行いました。入居者の皆様が移動した同九月十一日は

九時前から福祉車両十台が準備を整え、東村山と清瀬の往復を繰り返して計三十二便の運行により無事引越しが完了しました。



職員はハトホームで勤務していた職員のうち、五十二名が異動することになりました。多くの職員は通勤手段や通勤距離などが大きく変わり、施設の近くに引越した方、通勤用に自動車を購入した方、家事への影響など生活リズムが大きく変わった方などもあり、勤務を続けてくれていることに心から感謝しています。

代替施設は定員 百二十名、三階建ての施設で、各階に居室がありますが、第2ハトホームは二階、三階部分を居室として使用しています。代替施設の居室タイプはユニット型です。東京都のユニット型特養における介護職員等の配置数の平均は、介護職員等一人あたりの入居者数が一・七二人とのことですが、引越し時点で同一二・七八人でスタート

した従来型特養の第2ハトホームにとっては、決して使いやすい造りではありません。調理など他の部署においても非常に厳しい状況の中でのスタートとなり、新しいピカピカの施設に心躍らせる余裕ありませんでしたが、この条件の中でいかに適切にサービスを提供するか、効率良い動線をどう作っていくか、現場の職員が知恵を出し合い、工夫を凝らし、日々業務に就いています。

新施設の竣工は令和三年の二月の予定で、代替施設から新施設に戻るのは五月となります。一年五か月後、新施設が、入居者・地域・職員にとって、よりよいサービスと貢献、そして素晴らしい職場：三拍子も四拍子も揃った施設となるよう、職員が一丸となって、準備をしていきたいと思えます。



令和元年度 法人研修の取り組みについて

研修担当施設長 芦崎 康彦

今年度法人が主催している研修は次の通りとなっております。

- ① **新任職員研修**（三月二十七日・二十八日実施）
新任職員を対象に、社会福祉法人の役割、村山苑の歴史、社会人としての心構えマナー、法人の規則や規程、施設見学等二日間の日程で実施。
- ② **ステップアップ研修**（六月十日実施）
障害者雇用採用者（非常勤）を対象に、「長く働くために」を目的として、現在の悩みや将来の希望、自らの取組等、自由な意見交換を実施した。
- ③ **特定職種研修 看護師**（十月十五日実施）
特定職種研修 栄養士（十月二十三日実施）
看護師、栄養士を対象に、利用者（児童）支援に係る他部署との良好な連携を築くためには何が必要かについての検討をした。
- ④ **テーマ別研修**（十一月八日実施）
「虐待事例から虐待防止について考える」をテーマとし、二事例の報告を受け、虐待への

気づき、身近な虐待要因を考え虐待防止に繋げるために必要な事項等を検討した。

- ⑤ **新任職員フォローアップ研修**（十一月十九日実施）
新任職員研修に参加した職員を対象に、テーマは決めず、自由に語らう場として実施。
 - ⑥ **職員フォローアップ研修**（十二月五日実施）
勤続三年～五年の職員を対象に、職員育成や定着に向けての意見交換の実施。
 - ⑦ **福祉サービス研究研修**（二月二十一日実施予定）
各施設の職員より日々の業務の中で実践した事や研究した事を発表（発表八分、質疑二分）し、表彰を実施。
 - ⑧ **その他**
保育園管理者対象に虐待防止研修
管理職等を対象にした研修の実施。
- これらの研修は、ここ数年継続実施していることから法人研修として定着してきている。研修後の感想等からも、職員全体の意識向上やスキルアップに繋がってきている状況が伺える。今年度からは、障害者雇用枠（非常勤）の方々の年一回実施していた懇談会的な集まりを、研修扱い（ステップアップ研修）として将来に向けた目的意識（継続就労や正規職員登用等）をしっかりと持っていただけるように取り組んだ。

研修報告

「保育所保育指針の改訂と食育の推進」
研修に参加して

ひよし保育園

調理員 小嶋 幸代

十月十六日東社協保育部会主催の「保育所保育指針の改訂と食育の推進」研修に参加しました。講師の先生が細かく、分かりやすく指針の説明から始めて頂いた事で、〇・一・二歳児に手厚い保育が必要な理由など理解できました。そしてその改訂をどう食育に繋げるかという話になりました。最近では食に対する研究が進み、自閉症のような症状が出る子に対して、実は牛乳のアレルギーで牛乳を除去すると症状が治ったり、発達障害の子に対してミネラルの多い食事や、新鮮な野菜と魚、特にとびうおの出汁で症状が改善したなどの研究成果が出ているそうです。

人の体は食べた物で作られます。規則正しい生活と栄養バランスのとれた食事と心と体のバランスがとれるのだと思います。人が成長していく中で一番大切な時期にいる子どもたちに対して、これからも責任と自覚を持って、発達の手助けとなるような給食を作り提供していきたいと思えました。



研修報告

村山 荘

援助員 鈴木 千絵

令和元年十月十日～十一日、浜松市にて第四十三回全国救護施設研究協議大会があり、私は第四分科会「利用者の人権擁護と虐待防止に向けた取り組み」をテーマにした分科会へ参加させていただきました。三施設から虐待防止への取り組みについての意見発表があり、各施設、共通して取り組んでいた事が虐待防止委員会を立ち上げ、職員用にセルフチェックを実施、研修会への参加と職場内での研修、第三者評価実施をしている事でした。村山荘では、全職種全職員が虐待防止に努めるよう、虐待防止委員会として職員会議の中で検討する機会を設けています。また、グループ討議の中で、虐待防止への取り組みについて話し合い、業務見直し、余裕がない等職員への環境作りが主にあげられていましたが、救護施設の認知度の低さや閉鎖的である事が虐待への環境を作り出してしまふ、第三者が入ることで見られていると意識する事ができ防止に繋がるのではないかとの意見がありました。確かに以前より実習生やボランティア等外部からの出入りが少なくなつたと感じますが、納涼祭で多くのボランティアや地域の方が参加してくださり認知度はあるのではないかなと思つています。しかしながら、虐待は起こりうるものだと認識し、相手の立場に立ち理解するという事は、虐待防止にも繋がりの仕事上もつとも大切であると再確認した研修会でした。

第三十回関東地区救護施設協議会 職員研修会に参加して

さつき 荘

援助員 中尾 美和

令和元年十一月十三日～十五日の三日間、宇都宮にて開催された第三十回関東地区救護施設協議会職員研修会に参加させて頂きました。講演とグループワーク形式が中心で、他施設の職員との情報交換会もあり、熟慮されたプログラムでした。中央情勢報告（救護施設をめぐる制度の動向）では、貧困ビジネス対策による法改正について説明がありました。また、求められる救護施設のあり方と行動指針の報告では、「利用者の人権を尊重した支援と利用者主体の個別支援の質の向上」の大切さを知り、社会福祉法人は何に取り組んで行くのか、何を大切にして行くのか、救護施設と貧困ビジネスとの違いが自分の中で明確になり、一人の人に寄り添い支援する難しさ、やり甲斐など、今後の仕事に生かしていかなければ、と気持ち新たにすることが出来ました。グループワークでは、各施設の取り組みや悩みなどの様々な情報交換に、話題は尽きる事が無く、時間が足りないと思つた程有意義な研修となりました。



関東社会就労センター協議会研修大会 2019 in ぐんま

福祉事業センター

就労支援員 池上美登里

令和元年の六月二十七日・二十八日に高崎市にて開催された関東社会就労センター協議会研修大会に参加させて頂きました。大会の主テーマは「普通に楽しむ」です。テーマに沿っての講演や各分科会でのグループワークを行ったり、またシンポジウムでは障害を持つて働いている方々の発表を聞かせて頂いたり充実した二日間でした。

ただ働いて、ただ生活するというだけでは、豊かな人生とは言えず、利用者には「働く」を支援していく中で、「楽しむ」ということは、大事な要素であることや支援が必要なことを学びました。余暇の楽しみがあるから仕事を頑張れる、お給料をどう使つて楽しむかなど、仕事や生活の中に密着している「普通に楽しむ」ということは、大げさではなく「楽しむこと」は生きがいに結びついていき、「仕事をして生活をし、暮らしていく」ことで豊かな心が芽生え、利用者も輝いていければと思います。

法人の基本理念の中にある「生命の輝きを見出すことのできる福祉サービス」を、この研修を通じて自分なりに考えて学ぶ有意義な研修となりました。



「看護師として研修に参加して」

つぼみ保育園

看護師 松本ゆかり

今まで、アレルギー対策・感染症対策など色々な研修に参加してきました。保育園に勤務する看護職として、園児の健康管理・安全管理はとても大切です。毎月参加している東村山市の保育園の看護師会は、各園の「流行している感染症」・「事故事例の報告」・「情報交換」等を行います。また、東社協保育士会保健部会では都内の保育園の情報が得られ、どちらも勉強になります。

毎月の研修に参加しながら、二〇一四年に東社協保育士会保健部会で「今日から役立つ保育園の保健のしごと」を刊行し、保育園に勤める看護師の日々の悩みや業務の疑問に役立つ本とすると聞いています。今回は「明日からすぐに使える 保育園の健康教育」（赤ちゃん和妈妈・今年四月）の発行で編集委員として携わり、つぼみ保育園で行っている健康教育をいくつか掲載しました。この本も日々の保育に役立つ内容になっていると思うています。

このように研修に参加することは、日々の看護業務にとっても役立っています。



「子どもの健康と安全セミナー」に参加して

ふじみ保育園

看護師 神田 布美

二〇一九年八月五日に「子どもの健康と安全セミナー」の研修にいきました。保育園で生活する子どもたちの健康と安全を守るためには、保育園での保健の質の向上が求められています。○歳児の乳児から五歳児の幼児までが集団生活を送る保育園では衛生的で安全な環境が必要であり、感染症対策は欠かすことができません。

今回の研修に参加して講師の先生の話聞き、考えさせられた言葉がありました。「除菌のし過ぎは子どもたちの免疫力が低下する。一番大切なことは、除菌にこだわり過ぎず、まずは職員が感染症のメカニズムを知り、手洗いや咳エチケットのレベルの向上、維持しその上で子どもたちの手洗いのレベルを可能な限り上げることが重要である」という話でした。保健指導で子どもたちに手洗い指導や咳エチケットを話したりはしています。職員にも内部研修で感染症のメカニズムから話していく必要があると、今回の研修を終えて考えさせられました。ふじみ保育園でも基本的な換気・手洗い・咳エチケットを忘れず、たくましい身体作りができるように、これからも保健活動に携わっていききたいと思っています。



「研修に参加して〜赤ちゃん学を学ぶ〜」

ほんちよう保育園

保育士 榎木 綾乃

令和元年十一月二日に、白梅学園の研修に参加させて頂きました。

講義では、赤ちゃんを深く知るための多面的な視点から「赤ちゃん学」について学びました。

対乳児音声（マザリーズ）とはIDS (Infant-Interact speed)とも呼ばれ、乳幼児に対して大人が無意識に語りかけていることであり、マザリーズの特徴としては、①普段の声よりもピッチが高い②幼児語、育児語（これは日本に多い「ねんね」「あんよ」など）③わかりやすくゆっくりとした速度④一回が短い発話など様々な特徴があるということを知りました。

マザリーズは単なる気持ちの高揚ではなく「ことば」を伝えようとする母親の意図であり、乳幼児にマザリーズで語りかけることにより、乳幼児の注意をひきつけ、安心感を与え、乳幼児の脳内を刺激し、言語発達を促進すると言われています。またマザリーズへの選好は一才過ぎ位までで、その後はADS（成人語）を好むようになり母親は子どもが二語文を話し始めると脳活動が弱くなり声のピッチが下がり始め、子どもの発達に合わせて話し方を変えていくことには驚きました。

研修に参加させて頂いて、マザリーズは乳幼児期にとって重要な働きであることを知ることができこの講義で学んだ知識はこれからの保育にとっても大切なことだと感じました。研修で学んだことを生かしてマザリーズの大切さを忘れずに保護者の方にも伝えていきたいなと思いました。

栄養管理講習会に参加して

ハトホーム

管理栄養士 松川 美恵

令和元年十二月五日、多摩小平保健所で行われた栄養管理講習会に出席しました。

年五回程度、講習会が開かれるのですが、毎年十一月、十二月は同じ内容で、食品衛生の最新情報と食中毒予防についての講習会になります。流行している食中毒や事例などのお話の後に、「食中毒予防の三原則、「つけない」「増やさない」「やっつける」や正しい手洗いの手順など、基本的な衛生管理のお話がありました。毎年、同じような内容ですが、講習会の後には調理員にも再度、手洗いの徹底、基本的な衛生管理の確認を行います。

毎日、当たり前のように行っている事でも、再度みんなで確認を行う事により、個々の衛生管理に対する意識が変わると思います。

常に、安全で美味しく、利用者様に喜んで食べて頂ける食事を提供出来るようにこれからも調理場、介護と連携して業務を行っていききたいと思えます。

ソーシャルワークアカデミーに参加して

ハトホーム在宅サービスセンター

生活相談員 吉田 元子

今年度四月から月に一度、生活相談員研修に参加しています。

この研修では、生活相談員としての在り方や役割、多職種との連携の仕方、困難ケースに対してのアプローチ方法など、一年間を通して学んでいきます。

これまでに八回の研修を修了していますが、その中で一番印象に残っている言葉が『ソーシャルワークのコンパッション』です。講師の先生がこう話していました。「高齢者福祉や児童福祉という、それぞれ違う制度のもとで仕事をしていても、その境界を越えてしまう程の情熱を皆さんは持っていますか」と。また「どんなに熱い思いがあっても、どんなに素晴らしい知識があっても、相手に伝わらなければ意味がない」とも話していました。

研修はあと四回、少しでも内容を吸収し、相談員として成長していきたいと思えます。

ヘルパーの研修について

ほんちようケアセンター

管理者兼サービス提供責任者 岡本 友子

ほんちようケアセンターの訪問事業は、ヘルパーを対象とした研修を毎月行っています。研修テーマは多岐にわたっています。訪問事業の必須研修はもちろん、緊急時や災害時、事故予防などの研修、掃除や調理、接遇などです。

訪問介護は施設などのチームケアと違い利用者さんのお宅に出かけ、一対一でケアを行います。利用者ごとに道具、方法、留意事項が異なります。サービス全体の質を上げていくために、最新の情報を提供する必要もありますし、経験豊富なヘルパーと始めたばかりのヘルパーが交流できる場があることも重要です。参加型の研修を目指すとともに、毎月の研修と合わせてカンファレンスを設定し、お茶を飲みながらの情報交換もできるような心がけています。

ありがたい、と言ってもらえることを励みに日々、各お宅へ出かけていくヘルパーですが、ヘルパーにだけ悩みを打ち明けられてしまう、そんなこともよくあります。ヘルパー一人で抱え込まないよう、プロとしての知識、技術をこれから一緒に学んでいきたいと思っています。



施設通信

救護施設 村山荘

音楽クラブ

援助員 近藤 咲

音楽クラブの参加人数は職員、利用者全部で十二名います。活動日は主に月二回実施し、普段の活動はボランティアの先生のピアノやカラオケの演奏に合わせて季節の歌や利用者様の好きな歌を歌います。最近の流行は昔懐かしいアニメソングを歌っています。

今年度は東村山富士見町のイベント「ふれあいコンサート」に向けて、利用者様から希望のあったトーンチャイム（アルミ合金製のパイプをたたいて共鳴させる楽器）に挑戦しました。職員も利用者様も初めての挑戦だった為、最初はなかなか音を鳴らす事が出来なかつ



たです。練習期間も短く、十二名全員が揃う事もなく本番当日に揃って音合わせをしました。しかし、そんな状況の中、利用者様は本番にとっても強く、しっかりと音を出し、職員の合図に忠実に響かせる事が出来ました。

イベントでの発表が終わってからも、「またやりたい」との希望もあり、今後もトーンチャイムを取り入れていきたいです。

また十一月現在では、十二月の東村山市のイベント「福祉の集い」に向けて新たな挑戦として手話を用いての歌の練習をしております。

今年度は初めての事がたくさんあり、とてもやりがいを感じております。今後もいろいろな事に挑戦していきたいと思えます。

ふじみ保育園

卒園児交流

保育士 才原美智子

「おはよう…！」少し照れくさい顔で保育園の玄関を開ける子ども達。保育園にいた頃よりもお兄さん、お姉さんの顔つきをした小学一年生です。ふじみ保育園では、お祭りや運動会、七月、八月、十一月の土曜日（月に一回）に、卒園児交流を行なっています。久しぶりに訪れる保育園に、最初は照れた顔をしています。が、「懐かしい！」「あー！こんなおもちゃあった！」と嬉しそうな顔に変わっていきま

す。夏には、プール、秋には、園庭、グラウンドでたくさん体を動かして遊びました。在園児の子ども達も、「前のくすのきさん」に会い、嬉しそうな表情。一年生が自己紹介で、どの小学校に通っているのか、どの勉強が楽しいのかなど話すと、興味津々の保育園の子ども達。特に、年長のくすのきさんは、小学校への期待が高まるきっかけにもなります。

最初は、お互いに照れくさくとも一緒に遊び始めれば、グッと距離は縮まります。一年生が、下のクラスの子を気にかけて、靴を履かせてくれたり、遊びのリードを



取ってくれたり素敵な姿もたくさん見せてくれます。保育園時代に過ごした仲間と過ごす時間は、やはり特別なようです。これからも、交流を大切にしながら、保育園に来た時に、ほっとできる、元気の出る居場所であり続けたいと思えます。

寄附について

左記期間において、御寄附頂いた皆様をご紹介致します。
ご支援ご協力頂き、心から感謝申し上げます。(敬称略)

■平成三十年四月一日〜
平成三十一年三月三十一日

- 相原弘子 飯島芳子 伊藤京 大谷建興株式会社 株式会社 共伸インテリア 株式会社 コスモス医工 株式会社 光洋 株式会社 真栄パートナーズ 株式会社 保谷園 株式会社 増田禎司商店 株式会社 モバート 株式会社 山口建興 株式会社 悠建築事務所 倉田正子 佐々木義光 篠原商店 社会福祉法人 国分寺市社会福祉協議会 新堀ときわ会 聖心女学院中・高等科
- つぼみ保育園保護者の会 もゆる会 手塚真一 手づくりパン 萌留珠 東京厚生信用組合 小平支店 東光建設株式会社 當間義夫

- 長田皓子 肉の越木屋 野田敦子 ハトホーム家族会 会長 黒沢昭彦 パリー美容室 半澤恒子 ひばりが丘自治会 平成三十年度ふじみ保育園 卒園児保護者一同 ふじみ保育園保護者会 本間克也 マイマートきむら 松島クリーニング 松田商店 明治学院中学校・明治学院東村山高等学校 桃谷孝子 やまとスタジオ 山手則子 有限会社 榎本豆腐店 有限会社 おわりや 有限会社 スギモト米店 有限会社 鈴木紙工 有限会社 高橋米穀店 有限会社 たんぼぼ薬局 有限会社 にんや杉田商店 有限会社 ハマナカ事務機 有限会社 丸富商店 渡辺電気管理事務所 (五十音順)

新年のご挨拶

明けましておめでとうございませう
旧年中は格別のご高配を賜りまして誠にありがとうございました
本年も宜しくお願い申し上げます
村山苑一同

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5 法人本部 ☎042-3993-8496
- むらやまえん 生活相談所 ☎042-313-0301
- 村山荘(救護施設) ☎042-391-1262
- ハトホーム(特別養護老人ホーム) ☎042-3993-7574
- ハトホーム在宅サービスセンター ☎042-3998-2555
- 福祉事業センター(障害福祉サービス事業) ☎042-3995-3636
- ふじみ保育園(保育所) ☎042-3994-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2 さつき荘(救護施設) ☎042-3996-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2 つぼみ保育園(保育所) ☎042-3993-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-43-1 ほんちよう保育園(保育所) ☎042-3999-2100
- ほんちようケアセンター(高齢者施設) ☎042-3999-2102
- 〒185-0003 東京都国分寺市戸倉2-27-6 ひよし保育園(保育所) ☎042-843-0202
- 〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-3-32 第2ハトホーム(特別養護老人ホーム) ☎042-497-3200

ひびき

保育園では、お芋ほりの後日「焼き芋」という行事がありました。玄関をお掃除していると、Iさんが「これYさんの分ね!机に置いておくれね!」と焼き芋を一本分けてくださいました。先生方がモクモクの煙の中、落ち葉を何度もつぎ足しお芋を焼く姿、焼きあがるのを楽しみに待ちながら園庭で遊ぶ心躍っている子どもたちの姿。そんな思い出とともに私も美味しくいただきました。

行事を通して、子どもたちや先生方と心を通わせながら、お仕事をさせて頂ける保育園が私には大好きです。人生は大変な事も沢山あるのだけれど、仕事をすることを通して「生きている喜び」を感じる事ができます。子どもたち、温かな職場の方々の思いやりのおかげです。(Y・M)

―表紙の写真―
「鬼 柚子」

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。

* * *
ご意見・ご感想等お気づきの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和二年一月一日 発行
東京都東村山市富士見町二七―五
社会福祉法人 村山苑
発行者 品川 卓正
印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四―一―八